

# 日本をキリストへ 協力

8

「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1  
OSCCビル日本福音クルセード気付  
TEL 03-295-4414

より広く、より強固に

協議会会長 本田弘慈



あなたの天幕の場所を広げ、  
あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、  
綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。

イザヤ 五四・2

日本にある各種伝道団体が、連絡協議会を結成して早四年目を迎えました。いよいよその結束が固まり、その活動が進展してきました。

一昨年は伝道協フェスティバルを、そして昨年はユース・セレブレーションを開催し、諸教会の関心を獲得、収穫の多い時をもちました。これは大きな感謝であります。

今年も家族伝道を中心テーマにして、今一度フェスティバルを開催しようとしています。これは前年の繰返しではなく、今こそクリスチャン各自の全家族の救い、家族の人々の教会生活への関心を高め、日本の伝道に一層の拍車をかけ、推進をうながすためです。

日本の伝道は決して容易ではありません。しかし誰かがキリストによって救われ、教会生活を始めるとき、その家族に続いて救われる者が起り、教会に対して理解が深められるとき、その伝道は実りの多いものとなるのであります。

この意味において、今年六月に開催されるフェスティバルは、意義のあるものとなることを信じています。これに携わる関係者の一同は、常にキリストによって、その働きの幕を広げ、その奉仕を主のみことばによって強固にして前進すべきではないかと思えます。



## '88年はファミリー伝道年

伝道団体連絡協議会総務

### 多 胡 元 喜

なほどすみやかに、家族の救いもたらされることもあるが、なかなか時間がかることもある。しかし、信じ続ける者に対し、神は必ずみことばの約束を成就して下さるのである。

伝道団体連絡協議会では、一九八八年を「ファミリー伝道年」と

し、六月に開催される伝道団体フェスティバルでは「家族の救い」

をテーマとすることに決めました。

家族伝道と一口に言っても、いろいろなケースがある。両親、祖父母への伝道、夫が妻へ、妻が夫への伴侶の伝道、子供への伝道、さらには兄弟姉妹への伝道、などなど。

共通して言えることは、どの場合でも「良い証し人」になることが大切である。ことばだけでなく愛の実行が必要である。たびたび本田弘慈先生のことを例に出して恐縮だが、両親が事業に失敗した時、大変貧しい生計の中にありながら、本田先生は祈り助けた。献じた愛の実行を通して両親の心が大きく開かれたと聞いている。

忍耐が必要である。家族の者がすぐにイエス様を信じて救われる場合もあるが、多くの

場合、長い間の祈りと忍耐を必要とする。あくまで家族伝道は地味な伝道である。伝道団体に連なる者が協力してハデに何かをしたら家族伝道が大いに進展するなど安易には考えてはいない。一人の魂の救いのために日夜祈り、労している伝道団体が「家族の救い」というテーマのもとに情報・資料を展示し、すばらしい福音にふれるチャンスとして催し物が提供でき、少しでも家族の救いを祈るクリスチャンへの励ましとなり、教会の働き助けとなることを願っている。

私は本場に小さな働き人に過ぎませんが、八年前、イザヤ書六章八節のみに引き出されて伝道団体に働く一員として献身を新たにした時から、毎朝四つの祈りを励行している。

「私たちの働きがすべてのクリスチャンに豊かないのちを与えますように。」

「私たちの働きが未来に一人の宣教師、一人の神の人を起こす働きでありますように。」

「私たちの働きが日本の教会にリバイバルをもたらず良き備えとなりますように。」

「私たちの働きがクリストの教会に仕え、教会を建て上げる働きとなりますように。」

伝道団体における相互理解、相互協力、相互支援の実践の場として「ファミリー伝道年」の諸計画が進められ、同時に教会に益し、用いられる「フェスティバル」となるよう共に祈って前進したいものです。

家族の救いは、クリスチャンにとって一番の喜びであるが、また一番の重荷でもある。

本田弘慈先生は、両親を救いに導くのに三十五年もかかった、と言われる。その半世紀にも及ぶ伝道者生涯において、何千、何万という魂をクリストに導き、永遠の命へと導いて来られたが、両親がクリストの救いに導かれた時の喜びは、何にもたとえられないものだ、と語っておられる。それは救霊のわざにたずさわる者への冠であり、大きな祝福である。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも、あなたの家族も救われます。」

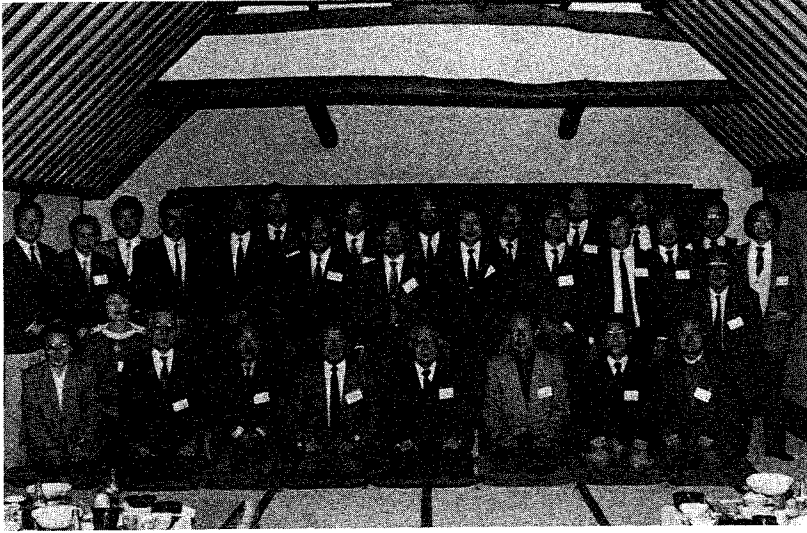
(使徒の働き16章31節)

このみことばは聖書の約束である。不思議

# 第三回

## 箱根一泊研修懇談会

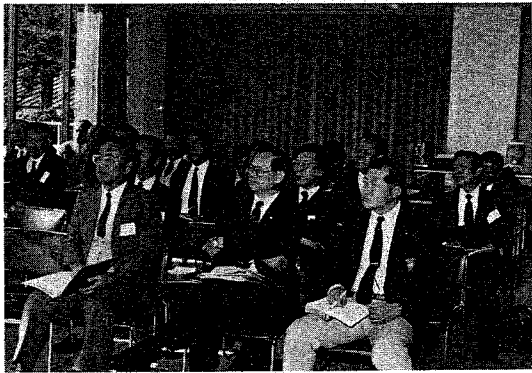
—一九八七年十一月二四日～二五日—



第三回を迎えた研修懇談会は二三団体から三十人の参加者を得て、よい交わりのうちに進められました。

今回は「日本伝道のビジョン」について本田弘慈会長から講演をしていただき、伝団協のメンバーですが、JEAを代表して岸田馨師に「ローザンヌ誓約と京都宣言における宣教理念とパラチャーチのかかわり」と題しての講演をお願いいたしました。

懇談のなかで、「教会は永遠で不滅であるが、パラチャーチは人造のものであり、消滅すべきものである」とのローザンヌ誓約の見解には納得できない、パラチャーチも神の摂理の中で生れたものであって、人造のものとはいえない、という発言がだされました。教



▲ 岸田師の講演に聞きいる参加者

会や牧師がどの程度伝道団体を理解し、一緒に主に仕えていこうとしているだろうか、との問もだされました。

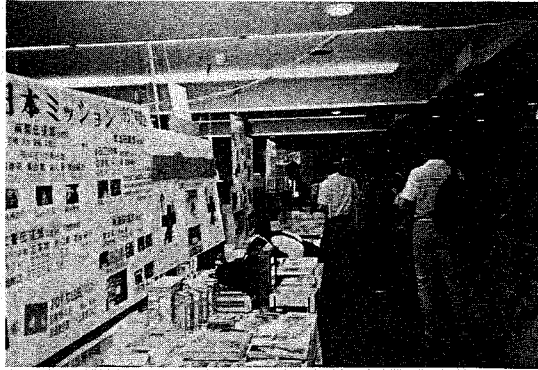
伝道団体は教会にとつて不可欠なパートナーであるとの認識をもってこれからの働きを進めていくことが大切ではないだろうか。その意味からもフェスティバルを通してもっと伝道団体の存在や働きを知ってもらう必要があるようです。

この研修会にもっと多くの参加者を得て、さらに広い交わりが持たれたならば、伝団協の目的をもっと有効に果せていけるのではないかと思います。定期的なことや場所等で参加がむつかしいようであれば役員会で検討したいと思えますので、ご一報くだされば幸いです。伝道団体全体の協議会がある一部の者のためだけのものになってしまっただけではないかと考えています。皆様からのご意見をお待ちしています。迎えました新しい年も一致協力してよい働きをしまりましょう。



## 第二回 伝団協フェスティバル

一九八八年六月十六日～十八日  
会場 O S C C



▲ 第一回伝団協フェスティバルの展示会場

第一回目のフェスティバルを終わってすぐ継続委員会が設置され、次回のことを検討してまいりました。アンケートにもとづいて、第二回を実施することにいたしました。実行委員会が次の方々によって構成され、目下準備活動が続けられています。皆様の熱いお祈りをよろしく願っています。委員名を敬称略で紹介いたします。

会長 本田

副会長 羽鳥、原、マクビティ

実行委員長 姫井

### ▼人気のリフレッシュメント・コーナー



催物・展示 浅見、鹿島、岡田、畠山、中本  
会場 渡辺、古木  
リクルート 多胡、藤井、田中  
財務 市村、岩崎  
C A T V 柳沢、竹内  
祈禱 村上

本部企画 ホーランド、高、芦屋、荒巻、関根  
教会担当 菊池、三森  
庶務 E H C (藤井)

事務局 O S C C 四二二

一月下旬で参加受けを打ち切り、ガイドブックの編集に入ります。原稿依頼が届きましたら、速やかに、よろしく願っています。八階ホールでの催物の申し込みがあと少しです。ぜひご活用ください。参加費などのお支払いはよろしくご協力ください。

### 新年情報交換会

今年度の情報交換会は、二月十二日 午後二時から、O S C C の小チャペルで行われます。毎年、各団体からその年に計画されます。諸行事や方針を交換し合い、協力して出来る場所がないか、あるいは計画の不必要なブツカリはないか、などを検討するのに大変役に立っています。

今年の伝団協の共通テーマは「ファミリー伝道年」ということが決定しています。これに向かってお互いに協力できる場所を見つけていけることができれば素晴らしいと思います。なかなか教会の手の届かないところに伝道団体が一致結束して叡智を集めれば、かなりのことができるのではないかと期待されます。フェスティバルのこと、秋の一泊研修懇談会のこととも協議されようとしています。

今年度の会費をお納めください。会費は一団体 一万円です。また、最近、新しく誕生した団体があるようです。お気づきの方は加盟をお勧めくださったら幸いです。現在のところ五十団体が加盟しています。

●発行日 一九八八年二月十日

●発行者 本田弘慈 ●編集者 姫井雅夫